

令和6年度第1回

高知県ひきこもりの人等に対する支援のあり方に関する検討委員会 議事概要

日時：令和6年9月9日（月）18：00～20：00

場所：高知城ホール 4階 多目的ホール

出席委員：12名（別添「出席者名簿」のとおり）

事務局：22名（別添「出席者名簿」のとおり）

議 事：

1. 開会
2. 議事
 - （1）孤独・孤立対策の推進について
 - （2）県の取組状況について
 - （3）市町村、ブロック域における取組状況について
 - （4）協議：課題等を踏まえた今後の方向性について
3. 閉会

【1. 開会】

- ・開会挨拶（子ども・福祉政策副部長）

【2. 議事】

（1）孤独・孤立対策の推進について

■説明

- ・地域福祉政策課

（2）県の取組状況について

■説明

- ・地域福祉政策課

■事務局（地域福祉政策課）

- ・若者サポートステーション事業について詳しい実績を教えて欲しい。

■事務局（生涯学習課）

- ・本事業ではひきこもり支援でなく自立支援を中心としているため、実績については割愛した。

●委員長

- ・若者サポートステーション事業と関連して、若者はばたけネットの取り組みはどのようなものか伺いたい。

■事務局（生涯学習課）

- ・中学校・高校を卒業後に進路未定の若者を支援につなげる取り組みである。
本人・家族に同意書を書いていただき、その同意書を基に若者サポートステーションに情報提供、若者サポートステーションから、学校に退学に至った経緯や進路等について聞き取りしたうえで、対象の生徒・保護者に連絡、支援につなげていくというような取り組みである。
- ・令和4年度までは、同意書という形はとっていなかったが、個人情報保護の観点から令和5年度から、本人もしくは保護者の同意を得た上で支援を行うような形に変わった。

●委員長

- ・学生さんと割と個人が分かって支援にも結びつけやすいというところもあるが、ひきこもりの方は窓口を作ってもなかなか、相談に来てもらえない。
- ・ひきこもり地域支援センターは知名度が上がってきたこともあり、相談件数は増加傾向ではあるが、各市町村地域でもっと、相談や相談支援が出来るようにするためにはどうしていったら良いか。

●委員

- ・当センターは、生活困窮者の自立支援機関として開設しており、年間500～600件の相談がある。本人が特定出来る200～300件の中で、ひきこもり・不登校の件数はピーク時で3%程度。
- ・本人から声をあげるというのは非常に難しい状況で、保護者から相談で、どこに相談しても解決せず、当センターまでたどり着かれて対応することもある。
- ・ひきこもりの当事者の方への支援の介入は難しく、回数を重ねて訪問するなど、関係性が出来てお話できるようになった方もいるが、一足飛びに支援が進んでいくのは難しい。

●委員

- ・声を上げられない方の支援について市町村としても、非常に課題というふうに考えている
- ・アウトリーチの形で、直接お伺いをして、相談をできるという形をとるのが、一番適切な支援だと思うが、なかなかそういった人材を確保できていない。

●委員

- ・社会とのパイプを自分で切ってしまっている方は、こちらから探しようがないが、趣味関係で何か楽しいことがあれば、一緒にやってみたいという方については、居場所（趣味を楽しめる場所）があれば、来てくれるのではないと思う。
- ・居場所に通われていた方で、居場所でゲームをやってみたいと提案してきたので、日を決めてやってみると、その日に初めて見る方が居場所に来られた。
- ・がっつりひきこもっている人にこちらから近づくのは難しいと思うが、そういう楽しいところがあるよということを、情報として伝えていくっていうやり方も、いいのかなと最近、当事者たちに教えてもらった。

●委員長

- ・ピアサポートセンターを運営する中で、支援者（サポーター）への支援として、課題に感じることはあるか。

●委員

- ・ピアサポーターも経験を積んでいくことで成長していくが、心の深いところでは傷が治りきっていないところがある。
- ・相談件数が増えてくると善意でない電話もかかってくる。攻撃的な方の対応を長時間していると、もたなくなるのでガイドラインを作り対応するなど負担軽減する方法を考えなければならない。

(3) 市町村、ブロック域における取組状況について

(4) 協議：課題等を踏まえた今後の方向性について

■説明

- ・地域福祉政策課

●委員

- ・市町村で支援しているひきこもりの方の年齢層を教えて欲しい。

■事務局（地域福祉政策課・ひきこもり地域支援センター）

- ・今回の市町村への調査では年齢までおさえられていないが、ひきこもり地域支援センターで主に支援している年齢層は20～30代の方が多い印象、8050問題と言われる、40～50代以上の方も多くいる。

●委員長

・ひきこもりという若者中心で見られることもあったが、ひきこもりの当事者、その家族も高齢化していく中で、そういった方々をどのように支援していくかという事が喫緊の課題として出てきている。残念ながら、高知県ではその実態が十分に見えてきていない。支援を必要としている人を市町村で把握出来るためにどうしていったら良いのかというところも課題として出てきていると思う。

・市町村ではつなぎ先が医療というケースがあるが、ひきこもりの方に医療の立場から、どのような支援が考えられるかご意見を伺いたい。

●委員

・アセスメント後のつなぎ先として医療機関がよく挙がってくるのは認識している。

・一方、精神科・心療内科の医療機関では、診断後の治療継続を前提に診療されているのが割と多い中で、丁寧に診断しようとすればするほど、時間と労力がかかってしまい、多量に受けきれないというところがある。薬が必要というわけでない方が多々おられるが、こういった方について、ご家族が障害福祉サービスなどを受けることに抵抗感があり、そこから先の支援が途中で途切れてしまうことがある。

・市町村など支援機関と繋がっている方は、伴走的にその後の支援に取り組んでくれるが、そうでない場合に医療機関として、その後の支援について課題を感じている。

●委員長

・医療が持っている専門性で、地都市町村の支援していただくにはどうしていけばよいだろうか。

●委員

・昨年、ひきこもりをテーマに関係機関にヒアリング等を行ってみたところ、基本的に民間医療機関は収益ベースで動いていることから、治療継続が前提となる形であれば関わりに消極的になりやすい。

・地域と医療機関がタイアップを図れる関係性を構築していくには、ひきこもり支援に関する会などを開催する際に、医療機関に人を出してもらうように様々なチャンネル（現場・経営層などへ）にアプローチすることが大事だと思う。

・1つのルートとして、精神保健福祉士協会への派遣依頼していただくという手段もある。

●委員長

・事務局からの報告で、地域から思春期保健の見立てができる人が欲しいという声が上がっているが、この声に対して、どのような支援・課題が考えられるか伺いたい。

●委員

- ・高知大学医学部が拠点病院として委託されている、子どもの心の診療ネットワーク事業では、地域でのケース検討会の実施や市町村からの相談を受けたりしている。
- ・最近、学校の方も、不登校・子どもの心のケア、精神疾患等の対応を意識した学校も出てきている印象がある。また、通信制高校が県内でも増えてきており、高校生卒業の資格まで取りやすくなっている印象がある。資格取得後について、お困りのお子さんには若者サポートステーション等に繋いだり、必要なお子さんには精神障害者保健福祉手帳等の取得を勧めている。
- ・最初に孤独・孤立対策・市町村プラットホームの話があったが、子どもの心の診療ネットワーク事業に関しても、似たようなネットワーク事業、拠点病院事業というものが増えてきている。こういった事業と連携しながら支援を進めていけたら良いのではないかなと思う。
- ・ひきこもり支援と他の支援との関わりについて教えてほしい。
- ・また、診療をやっていて、例えばシングルマザーで生活保護を受給しているご家庭で、SNSで知り合った男性とトラブルを抱えてしまい、ひきこもり同然で地域からも孤立してしまうというような方が増えてきている印象があるが、このような方について、孤独・孤立、ひきこもり支援の対象に含まれているのか教えて欲しい。

■事務局（地域福祉政策課）

- ・県の予算を伴うひきこもりの事業としては、議事資料7～8ページ目に記載されているとおりで、この中には関連事業も含まれている。
- ・補足として、参考資料（高地型地域共生社会リーフレット）の1ページ目中段に「地域共生社会を求められる背景」の絵があるが、この中にはひきこもり・健康問題・ヤングケアラーなどが書かれている。
- ・こういった地域の課題に対して、包括的にいろんな機関が協力して解決をしていくのが、地域共生社会づくりというふうに考えていただければと思う。
- ・また、参考資料3ページ「たて糸としての市町村の包括的な支援体制とは」では、社会福祉法が改正され、市町村の包括的な支援体制整備が努力義務となり、「相談支援」、「参加支援」、「地域作りに向けた支援」大きくこの3つを取り組んでいくというものになる。

- ・先ほど、事務局からの説明の中で、重層的支援体制整備事業（国の補助事業名）があったが、この交付金を活用して包括的な支援体制を作っていくというものになる。イメージ図（包括的な支援体制）には、多機関共同型の支援チーム（または支援会議）があるが、ここでは、様々な機関が集まり、複合的な課題を抱える方の問題解決に向けて話し合いが出来るというものである。

●委員長

- ・シングルマザーのお話については、先ほど重層的支援体制や地域共生社会の話もあったが、ひきこもり単体の問題として対応してくということではなく、ひきこもりの方にもご家庭があり、その中には高齢の方がおられたりとか、生活困窮、依存・自殺の問題が絡んでくる。
- ・シングルマザーで孤立しているという事であれば、ひきこもり地域支援センターとしてだけでなく、精神保健福祉センターとしても動いている。全体的に支援していくということが県が出来なければ、市町村に重層的支援体制整備をしろということとは言えない。
- ・市町村で、障害・高齢・ひきこもりなどの問題について、四苦八苦しながら対応しているところを、県がきちんと支援出来なくてどうするんだというところもある。
- ・多機関で検討する場を作り、いろんなジャンルにとらわれることなく、私たちが対応をしていかなければいけない、そんな時代にもなっていると思う。
- ・精神保健福祉法が改正され市町村でいろんな精神保健の問題をで対応していかなければいけないというところで、いろんな方々に協力していただきながら支援していくというような地域づくりをしていかなければならない。

●委員

- ・先ほど市町村と学校の連携の部分が課題として意見が出ていたが、県教育委員会としても、不登校支援の中で地域の福祉部局との連携が非常に重要であるという認識は持っており、学校の支援だけではどうにも解消に向かわないケースは、非常に多いと感じている。
- ・一方で、これまでに連携した部署及び機関の中に、教育分野も含まれており、市町村によっては校内の支援会に、福祉部局の方に入ったり、市町村教育委員会が管轄する教育支援センターが連携先に入っている市町村もある。
- ・県教委としても今後、各学校、それから市町村教育委員会に呼びかけていくが、市町村側からも学校・教育委員会に是非、働きかけて欲しい。
- ・現在、県教育委員会（人権教育・児童生徒課）では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー活用事業を実施しており、県内全ての学校にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置をしている。おそらく、連携のキ

ーマンとなるのがスクールソーシャルワーカーになるのではないかと思います。

- ・うまく連携が図れている市町村の状況を伺うと、スクールソーシャルワーカーが学齢期の児童生徒に対する支援や学校・関係機関とうまく連携しながらやっている。
- ・その部分と市町村の福祉部局の連携が図られているところは、このひきこもり支援の視点からでも、情報の適切な繋がりであったり、情報共有が進んでいくのではないかと思います。

●委員

- ・福祉保健所の市町村のひきこもり支援のバックアップでは、管内全体の会議を開催したり、市町村主催の会議（個別ケース検討会議など）に参加したりしている。
- ・ひきこもりの方の背景には、医療が必要なもの、生活困窮、母子家庭など様々な問題があり、一人一人対応もかなり違ってくるうえに、使える資源も少ない。
- ・このような状況の中で、先ほども話にあったが、ひきこもりの問題だけに対応するやり方という事ではなく、包括的に対応出来るシステム（重層的支援体制）が必要である。
- ・福祉保健所の担当が支援の中で、個人情報問題で動けないという困り事があるが、重層をすることで個人情報の部分がクリアされるというところは非常にいいことである。また、これまで、別々のラインでやっていたものが1つになるため、それだけ業務も効率化されるので多くの方々の参加も得られやすいと考えている。
- ・また、個別ケース検討会議をするという話になると、個別ケースの検討が出来る能力（きちんとアセスメント出来る能力）を持っておかないと集まってもいい結論は出ないということになる。
- ・そこについて、福祉保健所が何が出来るかというところは模索していかないといけないが、スキル（見立てなど）を上げるというところはすごく大事になってくると思っている。

●委員長

- ・スキルアップについて、ひきこもり地域センターでも各ブロックごとに研修会をやらせていただいている。福祉保健所にも協力いただきながら、一緒に支援していけたらと思う。
- ・これからはソーシャルワーカーがキーになるという話があったが、地域支援のキーとして働かれている民生委員児童委員にこれからの地域でのひきこもり支援について伺いたい。

●委員

- ・8050 問題がこの会議でもよくでるが、民生委員児童委員の活動をしている中で、高齢者だけの世帯だったら、すごく気にかかるようなところがあるが、その家庭に息子・娘がいるような場合はある程度、安心出来る。ただ、中には安心出来ないような家庭もある。
- ・地域包括支援センターが病院の通院を勧めたような場合でも、息子の了承が得られずに困ったということもある。(個人情報の壁があり、息子・娘がどんな人かというところまで踏み込めない)
- ・民生委員が活動するために地域のことを知っておきたいが、個人情報が壁になる。民生委員にも守秘義務があるので、支援会議などに参加させてもらって情報共有をしてもらいたい。

●委員長

- ・ひきこもりでこの社会で生きているのに、中々、人と人とのつながりが無い、民生委員が支援をしていきたいのに、いろんな壁（個人情報など）が出来ていて会議に参加させてもらえない。孤独・孤立というところで、やはりつながっていると思う。
- ・ひきこもり支援のところで、農業の方にしか道がないという話が多いが、労働の分野からご意見を伺いたい。

●委員

- ・ハローワークにひきこもりの方がそのまま来られるという事は無く、若者サポートステーションや福祉事務所、社会福祉協議会、保護者、市町村の担当窓口の方からの紹介がほとんど。ハローワークに来られる方というのは、一定、家族が心配して連れてくることもあるが、本人が働きたいという意欲がある程度ある。
- ・1週間ずっとでなくても、週に1日、2日程度、働けるという意欲がある方を連れてきていただいて、相談してくような形になると思う。
- ・入り口としては農業が多く、きつい仕事からそうでない仕事まで幅広くあり、長時間働けるという方から、毎日は難しいという方まで受け入れる事が出来る。
- ・ただ、給料が決して高いというわけではないので、より給料が高いところに移りたいということも実際は出てくることもあると思う。
- ・自分が現場で支援してきた中で、障害がある方で仕事も難しいかなと思っていたが、快く受け入れてくださる農家さんがいて、2年、3年とお世話になり、本人も少しずつスキルアップしていった。農家さんは幅広くいろんな方を受け入れてくれるという印象がある。
- ・最近、いろんな業界が人手不足で若い人が足りない状況にあるので、短い時間

でも受け入れてくれやすい状況があるのではないかと思います。

- ・ひきこもりの方を連れてきてくださったとしても、一足飛びに就職するということではないが、面談を進めていく中で本人の意欲が高まり、就職に至るようなケースもある。是非、いろんな機関の中で就職されたいと思っている方がおられましたら、ハローワークにつないでいただけたらと思う。

●委員長

- ・福祉保健所の取り組みについて伺いたい。

■事務局（中央東福祉保健所）

- ・中央東福祉保健所では、『中央東圏域精神障害者等支援ネットワーク会議ころらんまんネット』を立ち上げた。これは、ひきこもり支援に特化したものではないが、精神保健福祉法の改正の中で包括的な支援体制の確保が求められており、市町村の体制をバックアップする県の広域的な体制整備の一環として今年度から実施している。

- ・そのテーマの1つとして、ひきこもり支援について、いの町さんにもご協力いただきながら、11月に開催を予定している。

- ・自殺対策とか農福連携などテーマは様々だが、なるべく包括的にいろんな方々と協議ができる場として活用していきたいと思っている。

- ・来年度は研修会等、地域の支援力を上げるようなネットワーク会議と二本立てでやっていきたいと考えている。また、精神保健福祉センターや、高橋委員とも相談させていただきながら取組みを進めていきたい。

●副委員長

- ・今日話を聞いて、重層的・複合的に支援をしていく中で、その1つとして、ひきこもりを考えるという事だと感じた。

- ・全国の臨床心理士会とKHJ全国ひきこもり家族会が連携して、家族会の支援を高知県でも実施している。その中で、オープンダイアログの希望があり、当事者・当事者家族と研修する機会があったが、今までこんなに自分のことを喋ったことがなかったという声があった。原点である当事者の方々の声が発せられる場を作ること、初めていろんな事業が有機的に動くのではないかと思います。

- ・包括的に支援していくためにも、医療・福祉・教育分野を問わず、まず当事者の声を聞くという姿勢を作っていくことが最も重要ではないかと思います。

●委員長

- ・声なき声をどのように拾っていくのか、私たちが本当にいろんな人の声を聞いているのかというところで、ひきこもりの方だけでなく、市町村の方や、医療とか保健福祉などの現場の声を聞く場もなかなか持てていないというところもある。
- ・池永委員からも意見があったが、個人情報などいろんな壁が出来てきて、支援が難しくなった中で、本当に孤独孤立に陥ってしまっている、ひきこもりの方々も多くいると思う。そういった方々を皆で一緒になって支援していくということの重要性を本会議で共有出来たと思う。

【3. 開会】